

公認会計士

財務書類の監査、証明を行う専門家。財務を中心とした広い分野で活躍できる

➡ 財務・経理分野の最難関国家資格。取得者は、会計監査業務を独占的にできるほか、財務に関する調査や会計指導も行える。株主、一般社員、消費者など企業に関わるすべての人の利益を保障する仕事。独立開業や企業内の財務の専門家として働く道もある。08年より試験日は週末に変更。社会人も受けやすくなった。



長英二郎さん

33歳

中央大学新学部会計学科卒業。03年資格取得。東日本税理士法人の副社長、病院の経営コンサルタントを中心に、セミナー講師、書籍の執筆、テレビ出演など活躍している。医療系のノウハウも豊富。http://nagai.nadco.jp/nagai.htm

会計の知識を軸に幅広い仕事を手掛ける

長さんは、医療経営に特化した税理士法人で働く公認会計士。医療法人に対する税務・会計・コンサルティングが3本柱で、そのほか医療系の雑誌への寄稿、本の執筆、セミナー講師、テレビ出演なども行っている。コンサルティングの内容は、財務面はもちろん、診療報酬の観点からアドバイスしたり、医師や看護師の雇用について相談に乗ったりとさまざまな、「幅広く公認会計士という仕事の醍醐味」と語る。

そもそもコンサルティングの仕事にあてがわれていた長さん。公認会計士をめざしたのも、社会的な信用があり、試験でも会計、税務、経営と広く問われる資格だからだという。しかし、勉強は楽ではなく、7年を費やした。

「勉強中は、友達が社会人として働くのを見るのがつらかったです。合格したらスポーツカーに乗るんだと具体的な夢を思い描いてモチベーションを保ちました」

顧客満足度を第一にサービスを提供

試験勉強では、解く順番を意識した。本番は満点を取れるような試験ではない。大問だけでなく小問も解く順番を決め、解ける問題から解いた。それを普段の勉強でも心がけることで自分の得意・不得意がわかり、余裕も生まれたという。

仕事で心がけるのは顧客満足度。「医療経営の最新情報の提供など、顧客の潜在的な需要に応えるよう気を使っています。財務は一つのツールに過ぎません。どんな分野でも顧客が困っていれば解決策を考えます。リッツ・カールトンのように「フー」と言わないサービス」が基本です。公認会計士はプロフェッショナルとして重い責任を問われる仕事。資格取得後も常に勉強が必要だ。長さんも医療系の情報はいち早く入手するように注意している。

「その結果、専門家として取材を受けたり、仕事の成果が新聞に取り上げられたりする。名譽なこと、うれしく感じています。これからもお客様の満足度を第一にさまざまなサービスを提供していきたいですね」



顧客の新規開拓も怠らない。サイト経由で問い合わせがあれば、訪問して話を聞く。「直接お会いすることを大切にしています」（長さん）

Q 取得しようと考えた理由は？

A 税務・会計・経営の知識と社会的信用を得るため。

Q 今だからわかるこの資格の価値は？

A 幅広い分野を問われる資格。自分しだいで大きく広がります。

仕事内容CHECK!

登録するだけで税理士の資格も取得



公認会計士は、登録するだけで税理士の資格も取得可能。監査法人や企業の財務部門に勤める公認会計士のほかにも、税理士資格も取って独立開業し、中小企業の経営指導などに取り組み会計士も多い。

学び方CHECK!

一部科目合格制の導入で社会人の合格も可能に

ポイントは
新試験制度を利用した
計画的な学習

試験は短答式試験と論文式試験で構成され、短答式にのみ合格した場合、短答式は2年間試験免除となる。論文式も一定の成績を得た科目は、申請により2年間免除。この制度を利用して計画的に勉強しよう。

資格DATA

新制度が導入され合格者が増加!



「3段階5回」たった試験が06年度から短答式と論文式の「1段階2回」となり、合格者も大幅に増加。07年度の合格率は19.3%。女性合格者は701人で、全体の17.3%。年齢別では30歳未満が7割以上を占める。

合格者の数(単位) 主催試験(無料)
※03-05年度は旧2次試験合格者数